

海外安全対策情報（2019年10月～12月：ナミビア）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当国は政治的に落ち着いており、これまでテロや特定外国人を標的とした誘拐は確認されておらず、アフリカの中では比較的安全と言われている。他方、都市部では路上強盗等の一般犯罪は頻発しており、邦人旅行者が被害者となる事件も発生している。

（2）最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によれば、国内全体の刑法犯認知件数は年々増加の傾向にあるが、例年、認知刑法犯の種類に大きな変化はなく、年末は都市部の犯罪が地方へ分散する等パターン化しており、一定の治安は保たれている。月別の刑法犯認知件数については、1月が件数が最も少なく、2月～4月に増加、5月～6月に減少、7月～9月に多少変動があるが横ばい、10月～年末にかけて増加、12月に最も多くなる。認知刑法犯の上位は、住居侵入、暴行、盗難、車上荒らし、強盗等が挙げられる。

（3）当地の失業率は、2014年の27.9%から2018年は33.4%と増加傾向にある。特に若い世代（15才から34才）の失業率は46.1%（2018年）となり、それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物はカメラや携帯電話等の電子機器である。当地で発生した携帯電話の盗難被害件数は、2014年の4,446件から2016年の6,075件と27%増加している。

（4）環境・観光省のデータによれば、当国を訪れる邦人渡航者数は、2015年に2,192人、2016年に3,957人、2017年は4,044人と年々増加している。日本旅券盗難被害は2016年に6件、2017年に9件、2018年は1件、2019年は3件であった。邦人旅行者に対する強盗等の刑法犯認知件数は2018年に4件、2019年は11件であった。

（5）近年、体感治安の悪化により国民が安全意識の向上に関心を示し、銃の免許取得者は年間6,000～7,000人のペースで増加している。当国の銃器盗難件数は2016年に過去最高の250件を越え、銃器を使用した強盗は全体の強盗事件の内24%、銃器を使用した殺人事件は全体の殺人事件の内14%となっている。なお、Small Arms Survey（※当館注：スイス（ジュネーブ）にある国際銃器研究所）が2018年6月に発表した調査結果によれば、当国での銃器所持率はアフリカで二番目に高く、396,000台であり、その内個人使用目的の195,990台が違法、200,010台が合法の銃器と推定される。当地の治安当局は年々増加する銃器の所持、盗難や持ち主の管理不十分による紛失に起因する、銃器関連の犯罪増加を懸念している。

2 外国人に対する犯罪の事例

（1）10月2日、午後5時頃、コマス州、ウイントフック市内、エロス地区の屋外ATMでドイツ

ツ人旅行者に対する ATM カード盗難事件が発生。旅行者が見知らぬ男に駐車料金を ATM で支払うよう言われ、ATM へ向かい、現金を引き出した後、カードが出てきたところで男が旅行者の注意を逸らし、偽物のカードと旅行者のカードをすり替えた。旅行者はすぐに被害に気づき、警察に通報、防犯カメラの映像から男は逮捕され、カードも旅行者の手に戻り、実損はなかった。犯人の自宅からは盗難車である黒のメルセデスも発見され、盗難車は警察により回収された。

(2) 10月4日、午後2時40分頃、コマス州、ウイントフック市内、Phillip Shiimi 通りで在留中国人に対する住居侵入強盗事件が発生。複数名の犯行集団は被害者が大型商業施設 (Maerua Mall) 内のスタンダードバンクで現金 50,000 ナミビアドルを引き出したことを確認し、後をつけ、車で約 10 分の被害者宅に到着したところを襲撃した。犯行の際には、トンファ、大型ナイフで被害者を脅し、現金、携帯電話、パソコン等、78,000 ナミビアドル (邦貨約 624,000 円) 相当を持ち去った。

(3) 10月10日、午後3時頃、コマス州、ウイントフック市内、Tal 通りでドイツ人旅行者に対する車上狙いが発生。旅行者が一時駐車し車を離れ、数分後に車へ戻ったところ、窓ガラスが割られ、車中の財布、携帯電話がなくなっていることを確認した。

(4) 10月13日、午後6時頃、コマス州、ウイントフック市内、Okonguarri 通りに位置する住居で在留ドイツ人宅に対する住居侵入強盗事件が発生。複数名の犯行集団は電気柵を超え敷地内に侵入し、開放状態であったドアから侵入、自宅にいた在留ドイツ人にナイフを突きつけ、脅し、宝石や現金、その他金品 300,000 ナミビアドル (邦貨約 2,400,000 円) 相当を奪い、逃走した。

(5) 10月14日、午後11時頃、コマス州、ウイントフック市内、スイダーホフ地区の Seder 通りに位置する住居で在留中国人 2 名に対し、警察官を装った犯行集団による住居侵入強盗事件が発生。銀のフォルクスワーゲン・ゴルフに乗った 3 人組が被害者の自宅前のゲートに車を止め、反射材を身につけた警察官を装った 1 名が検査のため、ゲートを開放するよう要求した。被害者 1 名がゲートを開放すると、犯行集団はゲートの敷居を跨ぐように車を止め、ゲートが閉まらないようにした後、ナイフで被害者を脅した。被害者 1 名は抵抗したため頬をナイフで刺され、助けに入ったもう 1 名は殴打された。物的被害は外貨、現金 (金額は不明)、人的被害は被害者 2 名 (1 名はナイフで刺された際に重傷、他の 1 名は殴打された際に軽傷を負った。)

(6) 10月20日、午後2時頃、クネネ州、オウチョのスーパーマーケット前の ATM で、邦人旅行者に対する ATM カード盗難事件が発生。邦人が ATM カードを機械に挿入し、暗証番号を打

ち込んだ際、画面に暗証番号が映し出された（警察によれば、ATMに細工が施してあったと推測するとの由）。邦人は不審に思いキャンセルボタンを押したが、後ろにいた二人組にカードを奪われ、数分後、6回程取引され、205,388円を引き出されていた。

（7）10月27日、午前11時15分頃、コマス州、クラインクッペの商業施設（Metro Hyper）でオランダ人旅行者に対する声かけによる車上狙いが発生。見知らぬ男が車中にいた旅行者に車に異状がある旨を告げ、旅行者を車から降ろし、旅行者が車体を確認している最中、もう一人の男が助手席のドアを開け、座席に置いてあったカメラ、iPad等を持ち去った。被害の総額は85,000ナミビアドル（邦貨約680,000円）相当であった。

（8）11月3日、午後1時頃、コマス州、ウイントフック市内のレストランの駐車場（Am Weinberg Restaurant）でドイツ人旅行者が車上狙いの被害に遭い、車中に置いてあったジャケット、眼鏡等7,000ナミビアドル（邦貨約56,000円）相当が盗まれた。

（9）11月11日、午前9時15分頃、コマス州、カティマムリロのサービスステーションで邦人旅行者に対する強盗事件が発生。邦人が乗車していた長距離バスが休憩のためサービスステーションへ立ち寄った際、邦人も下車し、トイレへ向かった。途中、見知らぬ男にトイレを案内すると言われ、男の後をついていったところ、男は突然振り返り、邦人の肩掛けバッグのひもをつかみバッグを強奪しようとした。邦人が抵抗したところ、男は所持していたナイフでバッグのひもを切り、両者綱引き状態となり、それを見た周囲の人間が助けに入ろうとしたところ、男はあきらめ、邦人の顔を殴り逃走した。邦人は殴られた際に顔に軽傷、転倒した際に肘に擦り傷を負った。

（10）11月16日、正午、ザンベジ州、カティマムリロのサービスステーションで邦人旅行者がトイレに行く途中強盗被害に遭い、旅券、携帯電話、クレジットカードを奪われた。邦人は空き瓶を投げつけられ、足に3針を縫うけがを負った。

（11）12月3日、午後1時頃、コマス州、ウイントフック市内、大型商業施設（The Grove Mall of Namibia）の屋外駐車場で邦人旅行者に対する車上狙いが発生。邦人が昼食を終え車に戻り、トランクを開けたところ、旅券等が入ったスーツケースが無くなっていることを確認。警察によれば、ジャミング（無線送信機を用いて電波干渉させることにより、車のリモートキーによる施錠を妨害すること。）による犯行の可能性が高いとの由。

（12）12月16日、午後5時頃、コマス州、ウイントフック市内のレストラン（Roof of Africa）でベルギー人旅行者が車上狙い被害に遭い、ノートパソコンが盗まれた。被害総額は17,000ナミビアドル（邦貨約136,000円）相当であった。

(13) 12月18日、午後10時頃、コマス州、ウイントフック市内のレストラン(Roof of Africa)の向かいの通りで、米人旅行者2名に対する路上強盗が発生。銀のポロに乗った4人組の内3人が車から出て(運転手1名は車内で待機)、旅行者をナイフで脅し、旅行者2名が羽織っていたジャケット、iPhone2台、現金3,000ナミビアドル、旅券の入ったバッグを奪った。被害総額は30,000ナミビアドル(邦貨約240,000円)相当。警察によれば、旅行者2名が旅券を返すよう要求したところ、旅券は返してくれたとの由。

(14) 12月20日、午後9時頃、コマス州、ウイントフック市内のレストラン(Roof of Africa)の向かいの通りで、米人、カナダ人旅行者が強盗被害に遭った。銀のポロに乗った4人組の内3人が車から出て(運転手1名は車内で待機)、旅行者をナイフで脅し、米人旅行者のバッグを強奪した。一方、カナダ人旅行者がスパナで3人組の内1人のあごに一撃を浴びせたため、犯行集団は逃走した。被害は、米人旅行者の旅券の入ったバッグ1個。

(15) 12月29日、午後9時頃、コマス州、ウイントフック市内のレストランの駐車場(Am Weinberg Restaurant)でドイツ人旅行者に対する車上狙いが発生。窓ガラスが割られ、車中のジャケット、バッグを盗まれた。

(16) 12月31日、午後4時頃、コマス州、ウイントフック市内のスーパーマーケット(Checkers)でリビア人旅行者が車上狙い被害に遭い、車中のiPhoneを盗まれた。

3 薬物・危険ドラッグについて

(1) ナミビアは、違法薬物や危険ドラッグ等をブラジルから南アフリカを経て、アンゴラへ密輸する際の経由地として利用されている。

(2) 2018年6月15日、当館から西へ約300kmの港町ウォルビスベイで、ブラジル、南アフリカを経由してきた412kgのコカイン(ナミビア史上最高額、市場価格206,000,000ナミビアドル、日本円で約20億円)が押収された。

(3) 2019年2月11日、ナミビア警察広報担当官は、ナミビア警察・麻薬取締部が過去4か月間で違法薬物9,500,000ナミビアドル相当(日本円で約7千6百万円)を押収、423名を逮捕したと発表したうえで、「これまでナミビアは違法薬物の中継国と認知されていたが、もはや中継国でなく消費国である。」と述べている。

4 交通事故

交通事故による死者数は年々増加の傾向にあり、2011年の492件から2016年の731件と

5年間で33%増加している。交通事故発生の主な原因は、スピード超過、不注意、無謀運転等である。2016年のデータによれば、横転事故が全体の交通事故の29%を占め、次いで追突事故が27%、歩行者との接触が23%となっている。直線で片側一車線という道路も事故の大きな要因のひとつである。大型幹線道路で高齢者や初心者、または大型トラックが低速で走行していることに起因する無謀な追い越しも交通事故発生要因のひとつである。旅行者が移動中、飲酒運転による信号無視を伴う無謀運転の事故に巻き込まれ死亡したケースも確認されており、信号が青でも、交差点に進入する際は左右の確認をする等、注意が必要である。最新の情報によれば、2019年の交通事故報告件数は3,398件、死者547人となっている。

5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

6 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人が被害者となった、身代金目的の誘拐事件は認知していない。

7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○10月18日付け、悪徳警察官又は偽の警察官による不当行為

○11月26日付け、大統領選挙、国民議会選挙の実施に伴う注意喚起

○11月28日付け、ブラックフライデーに伴う犯罪増加

○12月5日付け、リモートキー施錠妨害（ジャミング）による車上荒らし（了）